

知床世界自然遺産地域 適正利用・エコツーリズム検討会議  
カムイワッカ部会（第2回） 議事概要

【日時】 平成25年10月11日（金） 14:00～17:00

【場所】 斜里町公民館 ゆめホール知床 会議室1

○知床公園線の落石対策等工事について

- ・観光資源であるカムイワッカの滝までは災害防止工事を実施したが、さらにその先まで多額の費用をかけて工事を実施することは社会情勢を鑑みても難しい。
- ・カムイワッカから先の防災工事については、ゲートから最初のカーブに至る数百メートルの区間における事業費が約20億円、硫黄山の登山道入り口付近から知床大橋に至る区間における事業費が10億円弱、併せて30億円弱という試算。ただし、極めて大雑把な概算であり、さらに膨れる公算が強い。
- ・通行禁止の区間も道道として認定されている以上、防災工事の計画が打ち切りになっているわけではない。また、知床大橋から先には番屋もあり、知床林道とも接続している。公道として最低限の維持管理は必要との考え。この区間の道路を廃止する意思はないが、費用的な面もあり防災工事には着手できない状況である。
- ・カムイワッカ湯の滝直下の左岸側擁壁（駐車帯部分）が傾いてきており、カムイワッカ湯の滝利用の安定化・安全確保のためには、補修工事が必要。

○カムイワッカゲート奥の通行

- ・狭いカムイワッカの滝周辺での転回ではなく、乗客は下車させたくてバスのみがカムイワッカゲートの先まで通行できれば、知床大橋の手前に十分な展開スペースが存在する。通行を認めることはできないか。
- ・カムイワッカゲートから先の取り扱いについては、落石対策工事が実施されていないため、落石の可能性があるので通行止めとしている。通行止めである以上、何人も通すことはできない。
- ・漁業関係者については、カムイワッカゲートの先に生活の拠点である番屋がある。道路を通行しないことには生活が成り立たないという事情がある。法理論的には囲繞地（いにょうち）通行権という考え方であり、他の所有者の土地を通らなければ自分の土地にたどり着くことができない場合の往来が認められるもの。道路の通行を認めているわけではなく、囲繞地としての土地の通行を認めているもの。万が一事故が発生した場合、管理瑕疵を問われる可能性は常にある。
- ・登山者についても公道として通行を認めているわけではない。リスクを受容できる登山者に限り、北海道の土地の往来を特例的に認めるという考え方。
- ・落石の危険がある道路について、一般車両の通行を認めることは、道路管理者としてはできない。バスの運行に関しては運輸局の事業認可が必要である。認可の際には、道路管理者への協議もあるが、このケースにおいて同意することはできない。
- ・自己責任での通行という声もあるが、仮に事故が起きた場合のバス運転手の人命に責任を持つ

## 131011 カムイワッカ部会（第2回）

ことはできない。落石の可能性は低くとも危険がある以上、通行止めの処置を変更することはできない。平成8年の豊浜トンネル事故の例では、自然災害と捉えられたにも関わらず管理責任を問われている。

### ○仮橋について

- ・仮橋は、保安林の内部行為作業の許可を得て、平成17年に設置。設置の目的は法面对策工事による工事車両転回のため。既に2度、許可期間の延伸を特例的に行っており、対策工事も終了していることから、平成26年度末には撤去しなければならないと林野庁から指摘。
- ・ただし、対策工事の計画が打ち切りになっているわけではなく、費用的な面もあり着手できない状況。
- ・シャトルバスの転回のために設置されているわけではない。
- ・仮橋が撤去された場合には、自家用車の転回場所や駐車スペースについても大きな問題が生じ得る。
- ・現時点で、仮橋そのものの老朽化や強度不足が判明しているわけではない。
- ・新たな工事に伴う仮橋の供用については、当該工事の着工時期次第で、個別の判断（使用許可期間の延長の可能性）もあり得る。
- ・原則論としては平成26年度中の撤去が必要であるが、新たな工事の着手等により存続させることについては、若干の調整の余地がある。ただし、仮設の構造物である以上、いつかは撤去が必要であるため、その後の議論は不可避。
- ・既に永久橋があるにも関わらず、シャトルバスの転回のためだけに新たな橋梁に架け替えすることは不可能。

### ○エコツアー戦略に沿った整備・利用

- ・観光関係者からはカムイワッカ地区は知床の象徴的なエリアであるといわれてきた。こうした面からも工作物の新設による景観面への影響について危惧される。
- ・コンクリートの擁壁がかなり目立つ懸念がある。
- ・駐車帯は限られており、繁忙期においては自由利用を前提とすることはできない。結果的には、シャトルバスを含めた交通システムを維持する必要がある。
- ・議論の前提が重要であり、必要なことは、あるべき姿や目標を共有すること。砂利道の奥地であるからこそカムイワッカの価値がある。コスト的にも景観としてもなるべく手をつけたいことが望ましい。